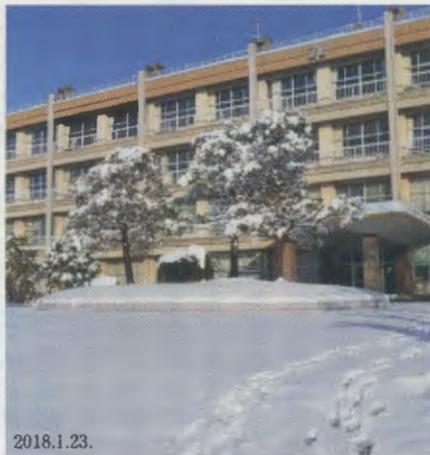


玉藻会報

第二十六号

発行所 茨城県立麻生高等学校玉藻同窓会 行方市麻生1806
TEL 0299-72-0098 FAX 0299-72-2317



玉藻同窓会の発展を 祈念して



同窓会長

横山 忠市

(高十四回卒)

平成二十八年八月七日に行われ
ました玉藻同窓会総会におきまして、
横田修平前同窓会長の「勇退に伴い、
同窓会長を仰せつかりました横山忠
市です。微力ではありますが、同窓
会発展のために、精一杯、務めます
ので、ご支援の程、よろしくお願
い申し上げます。

本校の同窓会組織を、「玉藻同窓
会」と言いますのは、校歌の一番に
出てくる「玉藻ゆたけく湖晴れて」
の歌詞に由来します。この「玉藻」

という言葉は、『万葉集』にたびた
び出てきますが、「美しい藻」を意
味します。本同窓会に、才能溢れる
若い会員の皆さんが加わり、社会の
第一線で活躍してくれることで、本
同窓会の輝きが一層増すものと期待
しております。

麻生高校は、昭和四年（一九二九
年）四月に茨城県で十番目の旧制中
学校として、現在の麻生小学校の地
に開校しました。旧制麻生中学校の
卒業生の総数が九八三名、麻生高校
の卒業生の総数が19,827名です。
本校の卒業生の総数は26,810名とな
ります。本校の卒業生が、日本全国
津々浦々で、各分野のリーダーとし
て活躍していらっしゃることを、同
窓会長として誇りに思います。しか
しながら、地域の少子高齢化が急激
に進行している現状を考えますと、
本校の将来には一抹の不安がありま
す。なぜなら、行方市は、二〇〇五
年九月二日に麻生町、玉造町、北浦
町が合併して誕生しましたが、当時
は40,035人の人口がありました。十
年後の二〇一五年には34,909人にな
りましたので、五千人以上減少して
いるのです。さらに、国立社会保障・
人口問題研究所の推計によると、行
方市の人口は二〇三〇年に三万人を
切り、二〇六〇年には一万五千人に

まで減少するというのです。このよ
うな状況の中で本校を存続させるた
めには、教育活動を充実させると
もに、広報活動にも力を入れ、今ま
で以上に広範囲から生徒を集めな
てはいけません。

幸い、本校では先生方のご指導に
より、ハンドボール部やバスケット
ボールの活躍だけでなく、本年度は
サッカー部が県高校総体で第五位に
入賞するなど、めざましい実績を上
げております。また、書道部や美術
部の生徒が、県芸術祭に数多く入選
するなど文化部の生徒も活躍する
とともに、人命救助で表彰された生徒
もいると伺っております。さらには、
進路面でも実績を向上させることで、
地域から評価される学校にしてい
だきたいと期待しております。

最後に、本校は、平成三十一年に
創立九十周年を迎えますので、『創
立九十周年記念事業実行委員会』を
立ち上げ、具体的な内容を検討して
いるところです。同窓会会員並びに
後援会会員の皆様から忌憚のないご
意見等をいただき、記念事業を成功
に導きたいと考えておりますので、
これからも引き続き、ご理解、ご協
力の程、よろしくお願い申し上げま
す。

ごあいさつ

校長 中島敏治
(高二十九回卒)



私は、昭和四十九年に麻生高等学校に入学し、現在の校舎が新築された最初の

入学生として、三年間、この学び舎で高校生活を送りました。教員としては、平成五年から十三年間、勤務いたしました。こうして、また母校に勤務できますことに、その責任の重さに身が引き締まる思いです。微力ではありますが、母校の発展のために精一杯取り組みますので、ご支援をよろしく願っています。

この度、十一年ぶりに麻生高等学校に赴任しましたが、この間、大きく変わったことが三つあります。

生徒数の減少

まず、生徒数の減少です。平成五年に私が勤務していた当時は、1学年8学級編成でしたので、全校生徒は千人を超えていました。それが、現在は、1学年5学級編成となり、全校生徒を併せて六百人を切っております。残念ながら、本年度の入試

においては、入学定員二百人の所、一九八人の入学者であり、定員割れを起こしています。地域の少子化が急激に進行していますので、今後も1学年二百人の入学者を集めるのは相当な努力を要します。入学定員を確保するためには、教育活動を充実させるとともに、本校の教育活動を積極的にPRし、広範囲から生徒を集める必要があります。

部活動の活性化

二つ目に、私が勤務していた当時に比べて、生徒の部活動の加入率が高くなっています。四月末時点で、運動部と文化部の加入率が65%を超えており、放課後は校内が生徒の活気で満ち溢れています。ハンドボール部や女子バスケットボール部が県大会でも上位の成績を残しています。本年度は、サッカー部が高校総体県予選で第五位に入賞することができました。文化部でも、書道部や美術部の生徒が、県総合文化祭美術展覧会において、多数入選を果たしています。

生徒の礼儀正しき

三つ目に、あいさつがきちんとできる生徒が増えたことが挙げられます。また、私が勤務していた当時は、問題行動を繰り返したり、服装や頭

髪で指導を受けたりした生徒がいましたが、現在本校では、生徒指導上の問題行動を起こす生徒がほとんどおりません。その結果、毎年、就職希望者の全員内定を達成しているだけでなく、公務員試験の合格者が増加したり、新日鐵住金や常陽銀行などの一流企業に内定者を出したりしています。

進路目標の実現を目指して

課題もあります。それは、国公立大学や難関私大の合格者を増やすことです。筑波大学や東京六大学に進学している生徒がいることから、本校生の中には潜在能力が高い生徒がいることが分かります。ただ、多くの生徒が、高校時代にその能力を十分に発揮できていないと思われれます。そこで、私は、麻生高等学校の『ASO』の三文字を使って、生徒諸君に行動指針を示しました。

まず、『A』ですが、これは『Ambition』すなわち、『大きな志』をもつことです。「絶対に実現するんだ」という大きな志をもって、努力を継続して欲しいと思います。

次に、『S』ですが、これは『seriously』であり、『真剣に』とか『本気で』という意味です。勉強だけでなく、部活動、生徒会活動、ポ

ランティア活動、学校行事など全ての活動に『真剣に』取り組み、三年間、充実した高校生活を送って欲しいのです。その結果、『自信』が生まれ、三年生になって受験勉強を始めた時に、最後まで諦めずにやり通すことができるのです。

三つ目の『O』は、『Overcome』であり、『困難や誘惑を克服する』とか『打ち勝つ』という意味です。進路目標が決まり、その実現のために具体的な計画を立て、努力を継続していても、思うような結果が出ない時には、くじけそうになります。また、楽をしたいという誘惑に負けようになる時もあるでしょう。そのような時には、自分の意志の力で自分の欲望や感情を抑える必要があります。これを『克己』と言いますが、本校生が大きな志と克己心を持って、努力を継続することで、自分の能力を高めてくれることを期待します。

以上の三つを本校生の行動指針としました。本校生が、三年間、努力を継続し、進路目標を実現してくれることで、旧制中学からの本校の伝統が、一層輝きを増すものと私は確信しております。

東京玉藻会について

会長 箕輪光博
(高十三回卒)

一昨年末に、加藤浩三会長(高四回卒)が勇退され、その後を受けて、小生(十三回卒)、稲田信之(十一回卒)、須田哲雄(十五回卒)両副会長、深澤眞幹幹事長(十四回卒)の新体制の下で、東京玉藻会は新たなスタートを切りました。加藤前会長は、本会創立以来、半世紀以上にわたって、幹事長、さらには会長として、東京玉藻会を牽引してきました。そのご尽力に深謝する次第です。私は、旧大和村天掛の出身です。幼少期は恵まれた自然環境の下で思い切り遊び、麻生高校に進学してからは勉強の楽しさを満喫し、諸先生のご指導のお陰で東京大学理科二類に入学することができました。75歳になる今日まで、仕事(森林科学研究)と遊び(趣味・囲碁、水彩画、ギターなど)と元気に向かい合って来られたのは、地域の郷(さと)育力、麻生高校の教育力のお陰と感謝している次第です。

さて、東京玉藻会は、五十年以上にわたって、年に一度、東京四谷のスクワール麹町会館等を会場として総会と懇親会を開催してきました。先輩諸兄のご尽力により、昨年の11月25日には、横山忠市玉藻会会長や中島敏治校長先生をはじめとする来賓の方々のご出席の下に、90名に及



ぶ同窓生の参加を得ることができました。それを可能にしたのは、年三回の幹事会開催であり、本年の一月でめでたく20回の節目を迎えました。幹事会は、各卒業年度を代表する15名内外の幹事から構成され、深澤眞

氏が幹事長として会の運営にあたって来ました。東京玉藻会の目指すところは、一つは年に一度の懇親を深めることであり、もう一つは、情報交換を通じて玉藻会の一層の充実、地元の発展や母校の教育に資することです。近年、地元学や郷育ということが重要視されていますが、その一翼をになうことができれば、これに過ぎた喜びはありません。これからも、地元玉藻同窓会、先生方・生徒諸君とともに、母校と密接な連携をとっていききたいと考えております。幸いなことに、この度の総会に、50代から60代にかけての女性の方々が30名弱参加されました。これからの玉藻会にとって、女性の方々の豊かな感性、生活力、企画力を活かした活動はまさしく発展の要です。本年は、その一つとして、食育や木育、郷育などを兼ねた地域との交流会・研修会等を考えているところです。最後に、本校が創立九〇周年を迎えるにあたって一言。俗に、「継続は力なり」と申します。今年が明治以来一五〇年、私の旧勤め先東大農学部も一三〇年、これまでの蓄積を活かして大きな理念と一〇〇年の計をもって未来に向かいつつあります。同様に、母校が、中島校長先生の入学式の挨拶にありましたように、高い理念とActive Learningの精神の下で、生徒諸君が「継続は力なり」を信じて文武両道に進進されることを念願する次第です。

建友玉藻会から 花の贈り物

十二月十日(日)に、本校の卒業生で、建設・造園に携わる方で結成されている「建友玉藻会」の皆さんが、花壇に素晴らしい花を植えてくださいました。今回は二十一名の方が参加してくださり、ハボタン百五十株、パンジー三百五十株を提供してくださいました。これから春先まで、きれいな花々が皆さんを出迎えてくれることでしょう。



行方の歴史を学ぶ

一月十五日(月)に、高校一年生の「道徳」の授業を利用して、「行方の歴史を学ぶ講座」を開講しました。講師の先生は、本校の卒業生で、現在、茨城県立歴史館で学芸課長を務める、小澤重雄先生(高三十四回卒)です。小澤先生は、旧麻生町根小屋のご出身で、麻生高等学校を昭和五十七年にご卒業後、早稲田大学教育学部社会学科に進学され、その後、早稲田大学大学院文学研究科で考古学を専攻されました。県立高校の地理歴史科の教員として採用され、麻生高等学校にも二年間教員として勤務されましたが、その後教育財団に異動され、現在は茨城県立歴史館で茨城県の歴史に関する調査研究に



従事されていらっしゃいます。

【講演内容】

考古学を専攻した理由

私が歴史に興味を持ったのは、麻生高校に入学してからです。受験を考える年になって、筑波大学を卒業した石川先生に相談して決めました。数学が大の苦手だったので、数学と物理はそこそこにやって、英語の勉強は頑張りました。高校在学中には、本をよく読みました。図書館で借りた本の中で、私しか借りていなかった本もあります。

考古学を専門としたきっかけは、偶然によるものでした。東洋史に興味がありました。大学に入学して学部の説明会に参加した際、開会の予定時間に行ったら誰もいなかったのです。そこに、考古学に興味を持つ同級生が来て、誘われて考古学研究会に入会したのです。説明会の席上で大学の先生から、「やりたいことがあるなら、大学に来なくてもよいですよ。」と言われました。大学では、何事も大人扱われます。大学を卒業するのもしないのも本人の自由です。大学の同級生には、『デーモン小暮閣下』がいますが、卒業式に、あの格好で参加していました。

「行方」の地名の由来

皆さんは、「行方」は読めますよね? 「行方」という地名は、今から約一三〇〇年前に編纂された「常陸国風土記」に出てきます。ところで、日本で初めて、遺跡の発掘調査をしたのは誰でしょうか?

- ① モース ② 佐々木忠治郎 ③ 水戸光圀

この選択肢の中で、水戸光圀(黄門様)は引っかけだと思ってしまうのが、実は、③水戸光圀が正解なのです。光圀は、元禄時代に古墳の発掘調査を行っているのです。ちなみに、モースは、明治時代に大森貝塚を発見した人で、佐々木忠次郎は、モースの弟子で、茨城県美浦村の陸平貝塚を発見し、日本人の手による貝塚発掘の第一号として有名です。光圀は古墳を発掘後、出土品をきちんと箱に入れて戻しています。東日本大震災後、光圀が発掘した際の割れ目が見つかっています。

風土記には六十六カ国の記載がありますが、現存するのは五カ国だけであり、「常陸国風土記」は東日本では唯一のもので、七一三年元明天皇の時に編纂されていますが、編者は不明です。記載内容は、①地名 ②土地の肥沃状態 ③産物を記録 ④地名の起源 ⑤伝承について、

編纂時までの内容が記録されています。「行方」の部分は完全に残っていて、崇神天皇、継体天皇、孝徳天皇に関する記載があります。継体天皇は現在の天皇家へつながる系統であり、孝徳天皇は六四五〜六五四年に在位し、大化の改新の時の天皇です。

それでは、一三〇〇年前の「常陸国風土記」に記載されている地名の中で、現在、茨城県の市や郡の名前にいくつ残っているでしょうか?

- ① 四カ所 ② 八カ所 ③ 十二カ所

答えは、久慈、那珂、(東)茨城、つくば、潮来、鹿島(嶋)、行方、河内の八ヶ所です。常陸国風土記の中に、「ヤマトタケルノミコト」がよく出てきますが、これは崇神天皇の皇子です。鹿島と行方地区を合わせて「鹿行(ろっこう)」と言いますが、これはNHKのアナウンサーでも読めない人がいました。ニュースで「かこう」地方と読んだのです。それでは、「潮来」の地名の起源はどれでしょうか?

- ① 海の潮が寄せるところ ② 船の材料の板が取れるところ ③ 多くの人が殺されたところ

正解は、「③多くの人が殺されたところ」です。朝廷の軍が霞ヶ浦西岸

にいる時、狼煙がこちら側に向けば朝廷に従うと判断し、反対側に向けば朝廷に逆らうと判断しようとした際、狼煙が反対側に向いたので、朝廷に従わないと考え、多くの人を殺したということです。「いたく殺す」から「いたこ」となり、「潮来」はその後の当て字として使用されました。「茨城」の名前の由来も、朝廷に従わない人たちを、いばらで追い込んで殺したことから来ているのです。

「麻生」の地名は、湖岸に麻が生育していたことに由来します。

伝承によるものとしては、「夜刀井」などがありますが、水に関する話が多く、開墾には水が大事であることを意味していると思います。

行方地区の歴史と史跡

古代の遺跡として三味塚古墳や大生古墳群があります。中世の史跡としては、西蓮寺（元寇が来襲した弘安の役の際、戦勝記念として建てた相輪様がある）や長勝寺（源頼朝の建立。北条高時が寄進した）があります。近世では、江戸時代の茨城県は水戸藩の管轄だと思っ

和四十九年まで麻生高校がありましたが、麻生藩の藩校があった場所です。周囲には陣屋跡や家老屋敷があります。海了寺は、麻生藩新庄氏や藩主の菩提寺です。麻生藩は当初三万三千石でしたが、途中一萬石に減奉されながらも幕末まで続きました。潮来市延方にある二十三屋尊堂は延方郷校の聖堂として建てられたもので、水戸藩の郷校として整備されました。

三味塚古墳は、行方市沖洲にありますが、前方後円墳であり、霞ヶ浦の堤防を作るために壊されました。その際、冠やイヤリングなどが出土されたのです。金メッキされていて、県指定文化財になっています。土下座している埴輪や家や女性、鹿などの埴輪も出ています。

地名から分かること

平成の大合併により、昔の町の名前が変わってしまいました。地名は、その地域の履歴書です。名前が変わることにより、過去の履歴や地形が分からなくなります。地名から、かつて水害が発生したことや土砂崩れがあったことが分かるのです。地名が変わること、その土地の履歴などが分からなくなります。

このようなことから、地名が変わ

ることは悪いことではないかと思えます。地名には由来があるので、どういふ言われがあるのか調べてみるとよいでしょう。

Have a nice day. 大崎公稔(高三十七回卒)

生物の授業で進化を扱う単元がある。地球が誕生して四十六億年の間に生命が誕生し現在まで多様に進化をしてきた。その際、地球カレンダーを紹介している。地球の誕生から現在までを一年のカレンダーで表すとどうなるか。三月二十一日に最初の生命が誕生し、人類が出現するのは十二月三十一日午前七時頃になる。更にホモサピエンスが登場するのは午後二十三時四十九分のことだ。一人の一生は瞬きするよりも短いことになる。それほど長い時間の中で、我々人類がこうして生きている。

元富山短期大学学長の金岡裕一先生は、「この大自然の中にある私たち人間は、地球が四十六億年かけて創り出した『生命』という奇跡の大傑作を、たった二秒間(三〇〇年間)に相当」で、自分達に内在する精緻極まる仕組みの一部を、自分達の頭脳で認識し始めた『ふしぎな存在』でもあるのです。」と講演でしゃべっている。地球上の生命の一つ

でありながら、高度な知能を有した存在である。

地球カレンダーと同様に、人生時計という考え方があ

二十四時間で表すとどうなるか。仮に日本人の平均寿命よりも短い

人の寿命を七十二歳とすると、三歳で一時間経過したことになる。すると十八歳は午前六時に相当する。目を覚ましてこれから始まる良き一日の準備をしている時であろうか。今日一日に期待を膨らますこともあれば、あまり具合がよろしくないこともある。どのような一日を過ごすかは、まさに朝の時間をどう過ごすかで違ってくる。気持ちの良い一日、楽しい一日を送るためにこの時間が大切なのである。高等学校で過ごす時間は、まさに始まったばかりの一日(人生)をどう過ごすかに大きく影響する。

周から漢の時代にかけて儒学者がまとめた「礼」に関する書物に「礼記」がある。その中の一文に「玉不琢不成器、人不学不知道」「玉琢(みが)かざれば器を成さず、人学ばざれば道を知らず」。『道を知らず』の「道」とは、こまごました知識の類ではなく、社会人として立っていただくための基本的な教養や、心構えとい

たものである。人は学ぶことでもどこまでも魂を高めて行くことができる。

企業や上級学校の方々と応対する場面が多く、様々なお話を伺う機会に恵まれている。元氣よく挨拶ができる、明るく人に接することができ、時間を守るなど、それぞれの職場や学校が期待する人物像は異なる。しかし、その方々が共通しておっしゃることは、学ぶ姿勢が大事であるということだ。上手くできるようになりたい、どうすれば上手くなるか、と考え試行錯誤する。いくつになっても自己の能力・技能を向上させようと勉強する意欲を持っている人が最後には成功する。

まだ始まったばかりのあなたの1日を、あなたはどうか過ごしたいですか。本校であなたにとっての良い1日にするために、一緒にがんばりましょう。



高校生生活を振り返って

31B

小川 真

麻生高校に入学して三年が経ち、

私たち三年生はそれぞれの進路に羽ばたくため、卒業式を迎えます。ここまでたどり着くことができたのは、先生方が、「第一志望の進路に合格したい」という生徒達を全力でサポートして下さったおかげだと実感しています。その熱く的確な指導によって、社会に出るための大切な体験を積むことができた三年間でした。

私の第一志望は、合格することが難しいと言われる「公務員試験」でした。私が公務員を第一志望にした理由は、魅力度ランキングが四十七都道府県の中で最下位である茨城県や稲敷市の魅力をより多くの人々に知ってもらい、この地域を活性化したいと考えたからです。このような動機があったからこそ、学校で何度も開講された公務員講座に参加し、学力の向上を図るとともに、面接や小論文対策を通して人間力の向上にも頑張ることができました。

私が公務員になるために努力したことは、まず、普段の授業を大切に学校生活も充実させたことです。さらに、英語検定二級取得にも挑戦したり、クラスの正委員に立候補し、リーダーシップを発揮したりしました。特に、英語検定では、ALITのニコラス先生に添削指導をしていた

だいたり、英語の先生方に授業以外でも指導していただいたりすることで合格することができました。英検の資格と今までの経験を生かして、多くの外国人に訪問していただけるような街作りを目指していきたいと考えています。

麻生高校で過ごした三年間は、人間として成長が実感できた三年間でした。入学した頃は少しの不安を抱えていたのに、二年生ではクラスをまとめる正委員になり、緊張感を感じながらも充実感を得ることができました。それらを経験したからこそ、茨城県庁に入庁するための面接試験を乗り越える力がついたと思います。

様々な分野で社会に貢献し、また、進学先で勉学に励んでいる麻生高校の諸先輩達に、麻生高校の同窓会の一員として私達は加わります。麻生高校卒業生としての自覚を持ち、県民と誠実に向き合って、信頼を得られるような公務員になるつもりです。稲敷市役所職員と県職員の内定を得た私は、努力は無駄にならないことを麻生高校で学びました。諸先輩方が築き上げてきた伝統を受け継いで、辛いことがあっても乗り越えていきたいと思えます。

大学で学びたいこと



31E
坂本 結花

私が麻生高校に入学した当初は、進路についてはっきりした目標はなく、充実した高校生活にするために一日一日を一生懸命取り組み心にかけて過ごしていました。二年生に進級してから、生物基礎と生物を選択し、授業を受けているうちに生命現象に大いに興味・関心を抱くようになりました。生物の教科書だけでなく、生物の図解を読んでいると、生物学には未解明の分野が数多く存在することが分かり、益々、知的好奇心を喚起されました。そして、高校卒業後に大学に進学し、もっと生物学を学びたいと考え、より勉強に専念するようになりました。

私は将来、生物学の分野の中でも特に細胞の癌化のメカニズムの解明に関する研究をしたいと考えています。生物の授業で、正常な細胞から癌細胞が生じ、癌化した細胞は無限に分裂するなど、特殊な性質があることを学び、私はとても興味を持ち

ました。また、生物の生命現象の不思議さ、日常生活で目にする植物や自分自身を含めた動物の生命維持の仕組みの複雑さに驚嘆するとともに、そのほとんどの機能が無意識のうち細胞の相互関係によって行われていることに神秘性を感じました。日本人の死因の第一位は癌ですが、現在では癌患者の早期発見ができれば完治できるまで検査、治療法の研究が進んでいます。しかし、再発する可能性もあり、予防法が完全に確立されているわけではありません。

また、東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故はとも衝撃的なものでした。そんな時、高校二年生の冬に、茨城大学の田内広教授が出演していたTV番組を拝見した際、放射線が人体に与える影響とそれに対する応答反応について関心を持ちました。正常な細胞から癌細胞への変異の要因やメカニズム、DNAの修復機構については、まだ解明されていないことが数多くあります。細胞レベルや分子レベルで癌化のメカニズムを解明することは、生命現象の神秘性を明らかにし、生命科学分野を進展させるだけでなく、癌予防を含めた医学の進展にも貢献できます。そこで、私は茨城大学理学部

生物科学科に進学し、より専門的に生物学を学び、その知識を生かして専門的な研究に取り組みたいと考えました。そして、茨城大学の推薦入試に挑戦したところ、運良く合格できました。

私が高校卒業後の進路目標を見出し、進学先を決定できたのは、麻生高校の諸先生方のご指導のおかげです。大学に進学したら、自分の夢の実現のために精一杯精進する覚悟です。後輩の皆さんも、できるだけ早い時期に自分の進路目標を見つけ、夢の実現のために努力を継続していただきたいと思います。

部活動の記録

野球部

第99回全国高等学校

野球選手権大会茨城県大会

一回戦 麻生 10対3 海洋

二回戦 麻生 3対5 日立北

男子ハンドボール部

全国高校選抜ハンドボール大会

茨城県予選 第3位



7.12. 対海洋戦・水飼選手本塁打を放つ

女子ハンドボール部

関東高等学校ハンドボール大会

茨城県予選 第3位

全国高校総体ハンドボール大会

茨城県予選 第3位

全国高校選抜ハンドボール大会

茨城県予選 出場

茨城県ハンドボールジュニア大会

準優勝



12.16. 対土浦日大戦延長戦を制す

サッカー部

全国高校総体茨城県大会 第5位



6.4. 対水戸商戦・加藤選手先制ゴール

女子バスケットボール部

関東高等学校バスケットボール大会

茨城県予選会 ベスト16

陸上競技部

関東地区高等学校

陸上競技対校選手権大会

男子400mの部優勝3A関根州人

女子200mの部優勝2D金田理央

関東地区高等学校

新人陸上競技対校選手権大会

女子400mの部優勝2D金田理央

女子やり投げの部

優勝1A馬場理佳子

弓道部

関東高等学校弓道大会関東地区予選
会通過 女子団体県大会出場
茨城県東地区高等学校夏季弓道大
会 男子個人優勝 秋永龍平
全国高等学校弓道大会茨城県予選会
男女団体出場
関東個人選手権大会関東地区予選会
1年生の部男子個人3位関野孝文
関東個人選手権大会県大会出場
男子7名(関野・鈴木・秋永・高
柳・井上・高須・増田)
女子1名(坂倉春奈)

卓球部

関東高校卓球大会関東地区予選会
男子シングルス 大川亮太3位
男子ダブルス 大川亮太・黒須航平3位
女子シングルス 橋本瑞希5位
女子学校対抗3位
全国高校総体卓球関東地区予選会
男子シングルス 大川亮太3位
男子ダブルス 大川亮太・黒須航平5位
女子シングルス 大崎葵5位
女子ダブルス 橋本瑞希6位
女子ダブルス 橋本瑞希・坂本美夢3位
全日本卓球選手権大会ジュニアの部

県東地区予選会

男子シングルス 大川亮太1位
女子ダブルス 橋本瑞希・坂本美夢2位
県東地区高校卓球新人戦
男子シングルス 大川亮太1位
女子シングルス 大崎葵3位
女子ダブルス 橋本瑞希・坂本美夢3位
男子ソフトニス部

男子ソフトニス部

関東高等学校ソフトニス大会県東
地区予選 出場
全国高等学校ソフトニス大会県東
地区予選 出場
新人戦県予選 出場
女子ソフトニス部
関東高等学校ソフトニス大会県東
地区予選個人ベスト16 団体4位
全国高等学校ソフトニス大会県東
地区予選団体4位
新人戦県予選団体2回戦進出
水郷杯 個人3位
女子バレーボール部

女子バレーボール部

関東県東地区予選会 予選敗退
総体県東地区予選会 予選敗退
県東地区夏季大会 4位
県東地区秋季大会 4位
新人戦県東地区予選会 4位(県大会出場)

書道部

茨城県高等学校総合文化祭美術展覧
会 書道の部
奨励賞 2E 埴 健吾
入賞 3B 松田遥夏
3D 宮内京香
2E 河嶋千帆
2E 宮川葵
1A 大野美綺
1E 平塚 舞

美術部

茨城県高等学校総合文化祭美術展覧
会 絵画の部
入選 3B 田中伶奈
3C 谷田川拓海
3D 須賀美咲

吹奏楽部

第30回 茨城県吹奏楽コンクール
県東地区大会 参加
第31回 茨城県アンサンブル
コンテスト県東地区大会 参加
茨城県高等学校総合文化祭 音楽会
(合同バンドで参加)

演劇部

平成29年度茨城県高等学校演劇祭
第34回県東地区大会 優良賞

バス見学会について

本校では、二年生で進路希望別に
分かれて、校外で体験型の見学会を
実施しています。

今年、七月七日(金)に、進学
希望者は、①明治大学・日本銀行・
貨幣博物館、②中央大学・日本科学
未来館、③早稲田大学・JICA、④文
教大学・学習院大学、⑤茨城キリス
ト教大学・水戸メデイカルカレッジ
の5コースで実施し、就職希望者は、
花王鹿島工場・新日鐵住金鹿島製鉄
所を見学しました。「進路目標を具
体的に決めることが出来て、参加し
てよかった」と、生徒から好評でし
た。

この事業は、茨城県教委の「一人
一人が輝く活力ある学校づくり推進
事業」の支援を受けています。



中央大学にて